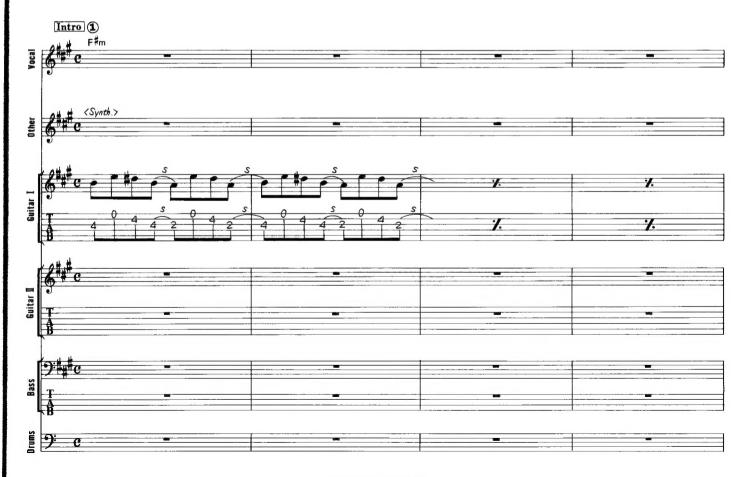
DON'T TELL ME YOU LOVE ME

ント・テル・ミー・ユー・ラヴ・ミー(炎の彼方 Words & Music by Jack Blades

衝撃の1stアルバム『DAWN PATROL』の1曲目、印象的なギター・アルペジオから曲はスタート。これはクリアなサウンドにコーラス系のエフェクターをかけて弾いているモノだ。スライドのテクニックを上手く使い、リズムの乱れがないようにプレイしよう。イントロ1の5小節目から他の楽器もスタート。ここはユニゾンのリズムで、リズムのキメを弾いており、しっかりと合わせるようにしよう。△のバッキングではシンセも使われているが、これはストリングス系で、少しアタックの強いサウンドにしてある。ベースはシンプルな8ビートのリフを弾いている。少しアップ・テンポ気味の曲なので、リズムがモタらないように、安定したリズムでプレイしよう。⑤からはギター・ソロだ。3小節目は

ピッキング・ハーモニクスのテクニックを使っている。ここは1音半のチョーキングであり、音程には気をつけてしっかりチョーク・アップをしてほしい。②の5~6小節目はトリル・フレーズ。ここはプリングとハンマリングを素早く繰り返す。国のギター・ソロはピッキング、フィンガリング共に、かなり高度なテクニックが要求されるスピード感のあるフレーズだ。初めはゆっくりとしたテンポでしっかり弾けるように練習しよう。①のエンディングでもギター・ソロが登場。ここでは2本のギターのハーモニクスになっており、リズムをしっかりと合わせて弾くようにしたい。





Other

Guitar I

tar II

.

ĭ

Cuitar













Vocal

Vocal

Guitar I

Guitar 🏻

Bass

Drums

Other

Guitar I

Guitar I

Bass

Ē







•

6

2

Painter I

Litter

•







Voca

ĕ

Guitar I

Cuitar II

.

-

ā







Vocal

Other

Guitar I

Guitar II

Bass

THE C

and a

A PAGE

.







Vocal

Other .

Guitar I

Guitar I

Bas

ā

Other

Cuitar I

uitar 🎚







Voca

Other

Guitar I

Guitar I

Bass

Orums

Yocal

Other

itar I

Guitar II

Race

Dring







Vocai

Other

Guitar I

Guitar I

Bass

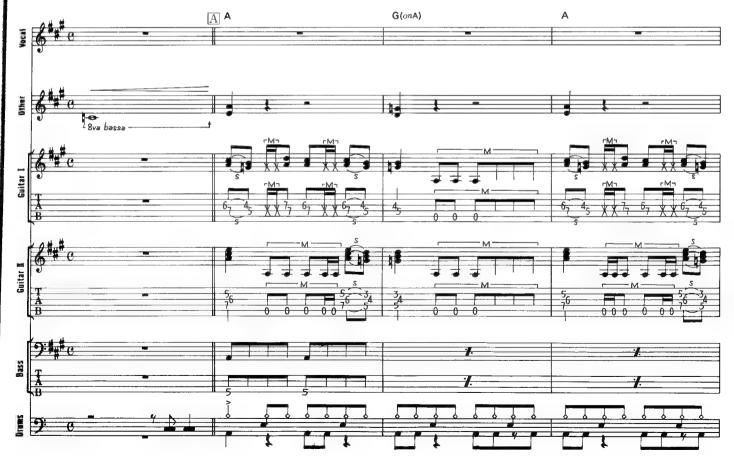
Drins

SING ME AWAY

シング・ミー・アウェイ Words & Music by Jack Blades and Kelly Keagy

1stアルバム、『DAWN PATROL』からの選曲。ツイン・ギター・バンドならではのギター・アレンジが光るナンバーだ。まず、IAIでのギター・リフだが、メインは、基本的にギター1と考えてよいだろう。これに対し、ギター2では、小節頭のコード感とベースのA音をフォローするようなアンサンブルになっている。尚、4小節目のD(on A)というコード・ネームは、キーボードに従って付けたもの。ギター2のプレイを優先するなら、F#m(on A)となる。音の濁りが気になる場合は、ギター2の2弦2fを3fに置き換えるか、キーボードのD音をC#音に変更することによって対処しよう。また、ICIでのバッキングは、ギター1こそ、IAIと同様のプレイだが、ギター2は、ベースのA音をフォローすることに徹しているのが興味深い。恐らく、ヴォーカルのバックでのプレイということを考慮し、ギター・サウンドが厚くなり過ぎることを避

けたのだろう。尚、国~©でのベースのプレイは、基本的に同じパターンが続くのだが、リハーサル・マーク毎に、ニュアンスの面で若干の変化が付けられている。国と©は、総ての音符をテヌート気味に、一方、国では各小節最後の音符のみテヌート、それ以外をスタッカート気味にプレイすると雰囲気だ。サビの巨、①、そしてエンディングの①では、ツイン・ギターのハモリが決め手となる。①、②でのそれは、いわゆる3度ハモリなのに対し、国のアルペジオは、コード・トーンを基本にしたハモリである点を押さえておきたい。回のギター・ソロは、ジェフによるプレイ。3小節目の2弦14fのチョーキングは、中指で。また、4小節目、8小節目のフレーズは、ラフに弾かずに、きっちりとビートに乗せたプレイを心掛けたい。さほど、速いプレイではないので、焦らずに整然としたピッキングで臨んでみよう。



© 1982 by KID BIRD MUSIC
All rights reserved. Used by permission.
Authorized to NICHION, INC. for sale only in Japan.



Mora

Other

Cuitar I

Builden I

9

.







Vocal

Other Other

Guitar I

Guitar 1

Rac

Cuitar I

Buiter I

Race







Bass

Other

uitar I

Buitar I







Puiter I

Guitar II

Bass

Drame

Vincal

Other

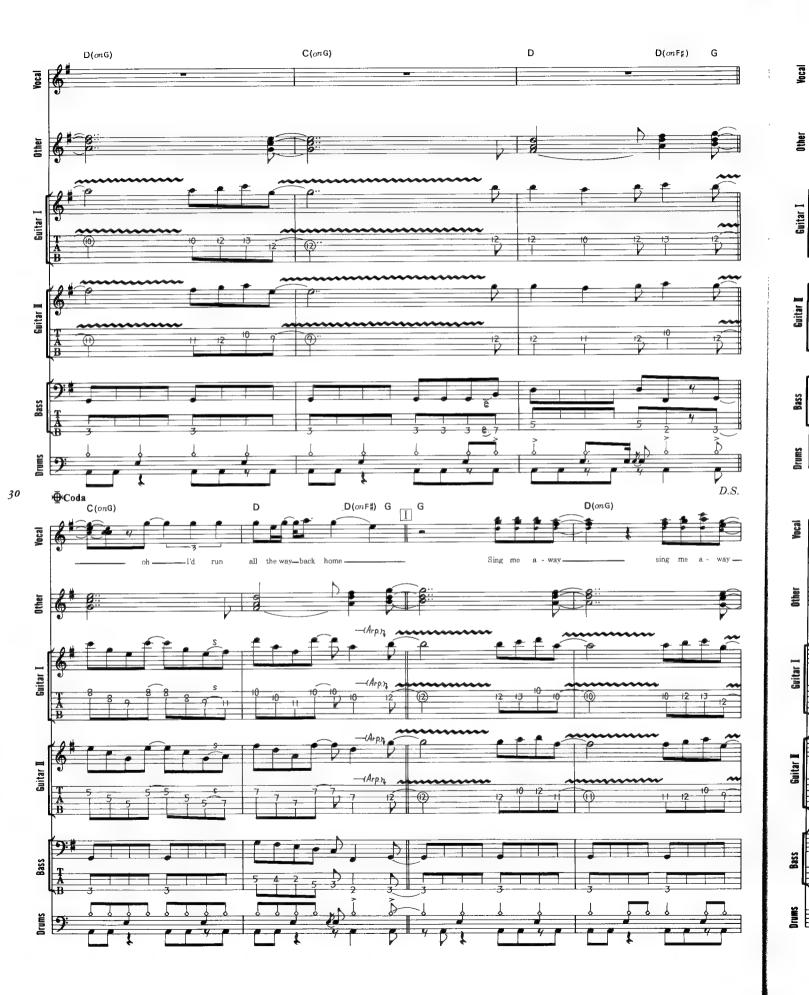
Buitar I

hitar I

Bass













Guitar

tar II

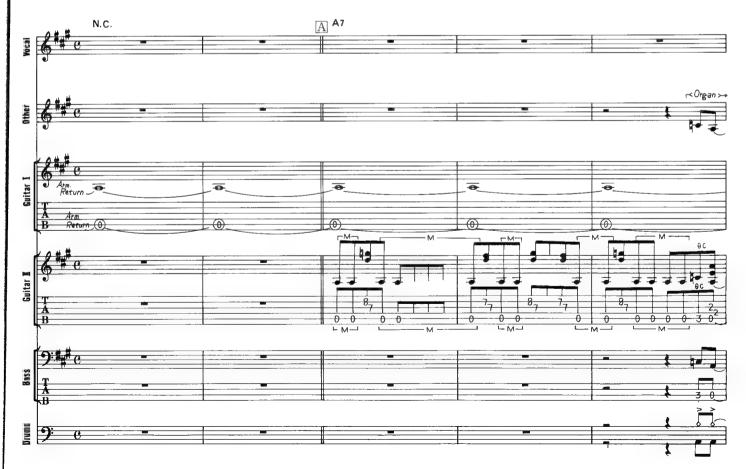
SSE

(YOU CAN STILL) ROCK IN AMERICA

ロック・イン・アメリカ Words & Music by Jack Blades and Brad Gillis

2ndアルバム『MIDNIGHT MADNESS』のトップを飾るこの曲は、彼らの代表曲であるのは勿論のこと、ジェフが8フィンガー奏法を初めて披露した、という点で、ロック・ギター史に残るナンバーでもある。では解説に移ろう。まず、昼のギター2のリフは、5弦開放と2、3弦による和音の弾き分けがポイントになる。7fを人差指、8fを薬指で押さえるのが妥当かと思うが、その際、人差指の先端で4弦、腹で1弦に触れ、余弦のノイズを防ぐようにしよう。目から頃は、ブラッドによるギター・ソロ。目2~3小節間のアームを用いたフレーズは、タブ譜だけではなく、5線譜もチェックし、音程変化を確認してほしい。また、⑤3小節目のヴィブラートは、いわゆるクリケット奏法。このケースでは、左手でハンマリングするタイミングに合わせて、アームの先端を指でハジくと雰囲気だ。尚、[F]の8小節間は、テンポが1/2になるので、

特にドラマーは、リズム・キープに注意しよう。日から」は、ジェフによるソロだが、問題は、やはり」の8フィンガー、ということになるだろう。1~4小節間の指使いは、[4f=人差指、7f=小指、12f=人差指、14f=中指、16f=楽指、19f=小指(12f以上は右手)]となる。5小節目以降は、フレーズのパターンにより、[2f=人差指、5f=小指、10f=人差指、12f=中指、14f=来指、17f=小指(10f以上は右手)]と、[4f=人差指、7f=小指、12f=人差指、14f=中指、16f=来指、19f=小指(12f以上は右手)]のフィンガリングを使い分けることになる。何はともあれ、右手でのフィンガリングに慣れることが重要。そんなわけで、まずは、比較的易しい $1\sim4$ 小節間のパターンを繰り返し、右手でのハンマリング、プリングの感覚を身に付けることから始めよう。





Vocal

Voca

Other

Guitar I

Guitar I

8355

Drums

Other

Guitar I

Guitar I

Bass







Mocal Other C E TAB Vocal

Other

Guitar I

TAB

Brings Basss







Puitar I

Cuiter I

0







TA B







leal

Other

P...itor I

P. itan

0

į







44

:

.







Yocal

Other

Guitar I

ē

Guitar I

Bass

Drums

Yocal

Other Other

Guitar I

Guitar I

Bass











SISTER CHRISTIAN

シスター・クリスチャン Words & Music by Kelly Keagy

アルバム『MIDNIGHT MADNESS』に収録されたこのバラード・ナンバーは、彼らにとって、初めての大ヒット・シングルとなった。ファンなら御存知の通り、バラードばかりを求めるレコード会社との対立が、バンド解散の要因になったわけだが、そういう意味では、その発端を作った曲とも言えるか…。それはさておき、この曲では、ギターよりも、むしろキーボード類がバンド・アンサンブルの要となる。実際の音源には、ピアノの他に、オルガン、ストリングスの3種類のキーボード・パートがダビングされているのだが、その総てを正確に記譜するのは、バンド・スコアのフォーマットでは、ちょっと不可能。ただ、スコア中の「A〜C」、「Jでは、ギター・パートが殆ど休符となるため、これを利用し、ギター・パートの段にオルガン、ストリングスを記譜しておいた。まず、「Aから「C」のピアノだが、この部分では、各音符のサステインに十分注意

したい。サステイン・ペダルを用いる場合は、基本的に左手の符割に合わせるように踏んでみよう。また、弾き始めのテンポにも、十分注意が必要だ。というのも、このテンポ設定を誤ると、回になって他の楽器が入ってきた時に、何ともプレイしづらいテンポになってしまからだ。回のギター・ソロの出だしは、1オクターヴ上のハーモニクスを狙って出したプレイ。押弦位置の12 f 上でピッキング・ハーモニクスを出すわけだが、この場合、押弦位置が14 f なので、ピッキング位置は26 f 上…、つまり、フレットの無い位置となる。ノーマルなストラトなら、フロントP.U.より約1 cmほどリア寄りが、ハーモニクス・ポイントになるはずだ。また、回1~2小節目の18 f、21 f は右手で押弦するプレイ。尚、18 f、21 f を押弦中に掛けるヴィブラートは、左手主体で行なった方がピッチも安定すると思う。



50

Yocal

ar I

board

Bass

Ē



















56

:

.

.













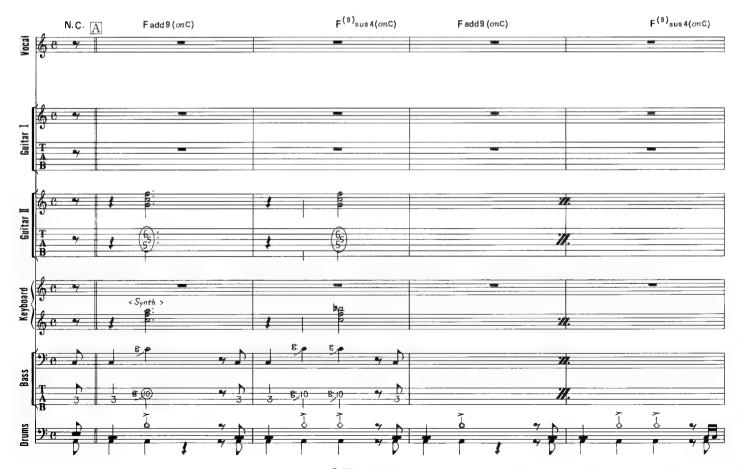
61

SENTIMENTAL STREET

センチメンタル・ストリート Words & Music by Jack Blades and Alan Fitzgerald

3rdアルバム『7 WISHES』に収録された、美しいメロディー、コード進行が印象的なナンバー。また、フロイドローズのアーム・ユニットを巧みに使いこなしたブラッドのソロ・プレイも秀逸だ。では、解説に移ろう。まず、「AIだが、スコア通りにプレイした場合、ギターとシンセの音量バランスによっては、多少音が濁って聴こえるかもしれない。その場合は、ギターの4弦5fを省いてしまえば、すっきりしたサウンドになるはずだ。「B」、「Cでは、エレピが、バッキングのメインとなる。メリハリの効いたプレイにするためにも、各小節、1拍目頭と2拍目裏にアクセントを置くことを意識してみよう。尚、「C」でのテンボの取り方を、1×と2×とで変えている点も、アレンジ上のポイントとして押さえておこう。「Dの最終小節は、必要以上に変拍子を意識しなくともOK。通常の4/4に半拍分加えただけ、と捉えてプレイしよう。「E」のギター・

ソロは、とにかくアームを絡めたプレイが決め手になる。4小節目のアーム・ダウンは、左手でヴィブラートを掛けながら行なったもの。これによって、通常のアーム・ダウンより、複雑な音程変化が得られるわけだ。次の5~6小節間は、アーム・アップがポイント。2弦8fのG音をアーム・アップでA音までピッチを上げ、その状態をキープしたまま、11fへハンマリング&プリング。その後、素早くアームをリターンし、再び、同じ動作を繰り返す…、というプレイ。アーム・アップで正確なピッチを捉えられるかが、勝負の分かれ目だ。また、圧最終小節のハーモニクスを絡めたプレイは、3弦3fのややブリッジ寄りで得られるハーモニクス(D音)を、2音半もアーム・アップが要求されるプレイだ。



© 1985 by KID BIRD MUSIC

All rights reserved. Used by permission.

Authorized to NICHION, INC for sale only in Japan





























